ご注意事項

本資料は、勉強会の為に作成されたものであり、有価証券の取引、その他の取引の勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようにお願いいたします。本資料及び資料にある情報をいかなる目的で使用される場合におきましても、お客様の判断と責任において使用されるものであり、本資料及び資料にある情報の使用による結果について、当社は何らの責任を負うものではありません。

本資料で記載しております価格、数値、金利等は概算値または予測値であり、諸情勢により変化し、実際とは異なることがございます。また、本資料は将来の結果をお約束するものではなく、お取引をなさる際に実際に用いられる価格または数値を表すものでもございませんので、予めご了承くださいますようお願いいたします。

加入協会
日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会
商号等
楽天証券株式会社／金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第195号、商品先物取引業者

外国株式のリスクと費用について

■外国株式　海外ETF／ETN／REIT

【外国株式等の取引にかかるリスク】
外国株式等は、株価（価格）の変動等により損失が生じるおそれがあります。また、為替相場の変動等により損失（為替差損）が生じるおそれがあります。上場投資信託（ETF）は連動対象となっている指数や指標等の変動等、上場投資証券（ETN）は連動対象となっている指数や指標等の変動等や発行体となる金融機関の信用力悪化等、上場不動産投資信託証券（REIT）は運用不動産の価格や収益力の変動等により、損失が生じるおそれがあります。

●レバレッジ型、インバース型ＥＴＦ及びＥＴＮのお取引にあたっての留意点
　上場有価証券等のうち、レバレッジ型、インバース型のETF及びETN（※）のお取引にあたっては、以下の点にご留意ください。
・ レバレッジ型、インバース型のETF及びETNの価額の上昇率・下落率は、2営業日以上の期間の場合、同期間の原指数の上昇率・下落率に一定の倍率を乗じたものとは通常一致せず、それが長期にわたり継続することにより、期待した投資成果が得られないおそれがあります。
・ 上記の理由から、レバレッジ型、インバース型のETF及びETNは、中長期間的な投資の目的に適合しない場合があります。
・ レバレッジ型、インバース型のETF及びETNは、投資対象物や投資手法により銘柄固有のリスクが存在する場合があります。詳しくは別途銘柄ごとに作成された資料等でご確認いただく、またはコールセンターにてお尋ねください。
※「上場有価証券等」には、特定の指標（以下、「原指数」といいます。）の日々の上昇率・下落率に連動し1日に一度価額が算出される上場投資信託（以下「ETF」といいます。）及び指数連動証券（以下、「ETN」といいます。）が含まれ、ETF及びETNの中には、原指数の日々の上昇率・下落率に一定の倍率を乗じて算出された数値を対象指数とするものがあります。このうち、倍率が＋（プラス）１を超えるものを「レバレッジ型」といい、－（マイナス）のもの（マイナス１倍以内のものを含みます）を「インバース型」といいます。

外国株式のリスクと費用について

【米国株式の信用取引にかかるリスク】
米国株式信用取引の対象となっている株式等の株価（価格）の変動等により損失が生じるおそれがあります。米国株式信用取引は差し入れた委託保証金を上回る金額の取引をおこなうことができるため、大きな損失が発生する可能性があります。その損失額は差し入れた委託保証金の額を上回るおそれがあります。また、米国株式信用取引は外貨建てで行う取引であることから、米国株式信用取引による損益は外貨で発生します。そのため、お客様の指示により外貨を円貨に交換する際の為替相場の状況によって為替差損が生じるおそれがあります。

【外国株式等の取引にかかる費用】
〔現物取引〕
1回のお取引金額で手数料が決まります。

分類	取引手数料
米国株式	約定代金の0.495%（税込） ・最低手数料：0米ドル ・上限手数料：22米ドル（税込）
中国株式	約定代金の0.275%（税込） ・最低手数料：550円（税込） ・上限手数料：5,500円（税込）
アセアン株式	約定代金の1.10%（税込） ・最低手数料：550円（税込） ・手数料上限なし

※当社が別途指定する銘柄の買付手数料は無料です。
※米国株式の売却時は上記の手数料に加え、別途SEC Fee（米国現地取引所手数料）がかかります。詳しくは当社ウェブページ上でご確認ください。
※中国株式・アセアン株式につきましては、カスタマーサービスセンターのオペレーター取次ぎの場合、通常の取引手数料に2,200円（税込）が追加されます。

外国株式のリスクと費用について

〔米国株式信用取引〕
1回のお取引金額で手数料が決まります。

取引手数料
約定代金の0.33%（税込） ・最低手数料：0米ドル ・上限手数料：16.5米ドル（税込）

米国株大口優遇の判定条件を達成すると、以下の優遇手数料が適用されます。米国株大口優遇は一度条件を達成すると、3ヶ月間適用になります。詳しくは当社ウェブページをご参照ください。

〔米国株式信用取引（米国株大口優遇）〕
約定金額にかかわらず取引手数料は0米ドルです。

※当社が別途指定する銘柄の新規買建または買返済時の取引手数料は無料です。
※売却時（信用取引の場合、新規売建/売返済時）は上記の手数料に加え、別途SEC Fee（米国現地取引所手数料）がかかります。詳しくは当社ウェブページ上でご確認ください。

●米国株式信用取引には、上記の売買手数料の他にも各種費用がかかります。詳しくは取引説明書等をご確認ください。

●米国株式信用取引をおこなうには、委託保証金の差し入れが必要です。最低委託保証金は当社が指定する30万円相当額、新規建て時に最低必要な委託保証金率は50%、委託保証金最低維持率（追証ライン）が30%です。委託保証金の保証金率が30%未満となった場合、不足額を所定の時限までに当社に差し入れていただき、委託保証金へ振替えていただくか、建玉を決済していただく必要があります。

外国株式のリスクと費用について

【米国貸株サービスにかかるリスクおよび費用】

●リスクについて

米国貸株サービスの利用に当社とお客様が締結する契約は「消費貸借契約」となります。株券等を貸付いただくにあたり、楽天証券よりお客様へ担保の提供はなされません（無担保取引）。

●投資者保護基金の対象とはなりません

貸付いただいた株券等は、証券会社が自社の資産とお客様の資産を区別して管理する分別保管および投資者保護基金による保護の対象とはなりません。

●手数料等諸費用について

お客様は、株券等を貸付いただくにあたり、取引手数料等の費用をお支払いいただく必要はありません。

●配当金等、株主の権利・義務について

貸借期間中、株券等は楽天証券名義又は第三者名義等になっています。そのため、貸借期間中に権利確定日が到来した場合の配当金については、発行会社より配当の支払いがあった後所定の期日に、所得税相当額を差し引いた配当金相当額が楽天証券からお客様へ支払われます。また、株式分割等コーポレートアクションが発生した場合（整数倍の株式分割を除く）、自動的にお客様の口座に対象銘柄を返却することで、お客様は、株主の権利を獲得します。

●配当金の情報について

米国貸株サービスにおける配当金の情報は、S&Pグローバル社より提供されるデータを基にしており、原則として毎営業日の更新となります。配当金は各企業の判断で廃止・変更になる場合がありますので、必ず当該企業のホームページ等で内容をご確認ください。

●大量保有報告の提出について

貸株対象銘柄について、楽天証券およびまたはそのグループ会社等の保有が基準以上となった際にSEC（Securities and Exchange Commission：米国証券取引委員会）に報告書を提出する必要が生じます。その場合において、お客様の氏名、取引株数、契約の種類（株券消費貸借契約である旨）等を報告書に記載させていただく場合がございますので、予めご了承ください。

●税制について

株券貸借取引で支払われる貸借料及び貸借期間中に権利確定日が到来した場合の配当金相当額は、お客様が個人の場合、一般に雑所得又は事業所得として、総合課税の対象となります。なお、配当金相当額は、配当所得そのものではないため、配当控除は受けられません。また、配当金相当額は外国税額控除の対象外です。また、お客様が法人の場合、一般に法人税に係る所得の計算上、益金の額に算入されます。税制は、お客様によりお取り扱いが異なる場合がありますので、詳しくは、税務署又は税理士等の専門家にご確認ください。

ETF/ETNのリスク（抜粋）

【複雑な商品設計のETF/ETNについての注意点】
ETF/ETNの中には、ボラテリティ指数先物を対象としたETF/ETNやカバードコール戦略を取り入れたETF/ETNなど、先物取引やオプション取引を組入れている場合があります。そのようなETF/ETNは、先物のロールによる価格変動、対象指数等そのものの急激な値動き等によって想定外の値動きをする場合があります。
また、レバレッジ型ETF/ETNやインバース型ET/ETNは、原指標の日々の変動率に一定の倍数を乗じて算出されるレバレッジ型指標に連動するよう運用されます。そのため、値動きや想定されるリターンは、通常のETF/ETNとは異なる特性を有しています。
複雑な商品設計のETF/ETNに投資される際は、商品設計を開示書類等でご確認していただき、十分ご理解していただいた上で投資をしてください。

【ETFにおける信用リスク】
リンク債型ETFやOTCデリバティブ型ETFなどにおいては、ETFが投資に用いるリンク債の発行体またはETFのOTCデリバティブ取引の相手方の財務状況の悪化などにより基準価額が大きく下落する信用リスクが存在します。これらのETFの投資にあたっては、商品設計を予めご確認する必要があります。

【ETN発行体の信用リスク】
ETNは、裏付となる資産を保有せず、発行体となる金融機関の信用力をもとに価格が特定の指標に連動することを保証する債券です。 そのため、発行体の倒産や財務状況の悪化、信用格付の引き下げ等の影響により、ETNの価格が下落または無価値となる可能性、 また、償還時に発行体が償還金額を支払わない、または支払うことができない可能性があります。このような結果、損失が生じる可能性があります。

【早期償還等のその他のリスク】
市場動向の急変時や資産総額が小さくなった場合など、管理会社等が運用の継続が困難であると判断した場合は、運用を終了し、繰り上げ償還をする可能性があります。取引所が定める上場廃止基準に該当した場合などは、上場廃止となる可能性があります。

詳細は、当社HPの「ETF/ETNのリスク」をご覧ください。

第3回

目指せFIRE！
”もみあげ流”ゼロから始める米国株投資
「お金を働かせる」投資哲学

目次

1. 米国市場状況の概要

2. 「お金を働かせる」為に重要な投資哲学

3. FIREを目指せ！計画をたてよう！まずは年齢別投資シミュレーションで目標金額を設定

4. ポートフォリオの組み方（コア・サテライト、銘柄の選び方）

5. 資産形成目的別：S&P500とNasdaqとNYダウ指数の選び方、資産の棲み分け

6. まとめ

米国株市況-指数レベル

全ての指数がじり高状態。最高値も更新。

年初来

半導体指数
+14.63%

ナスダック**+11.78%**

ダウ**+6.91%**

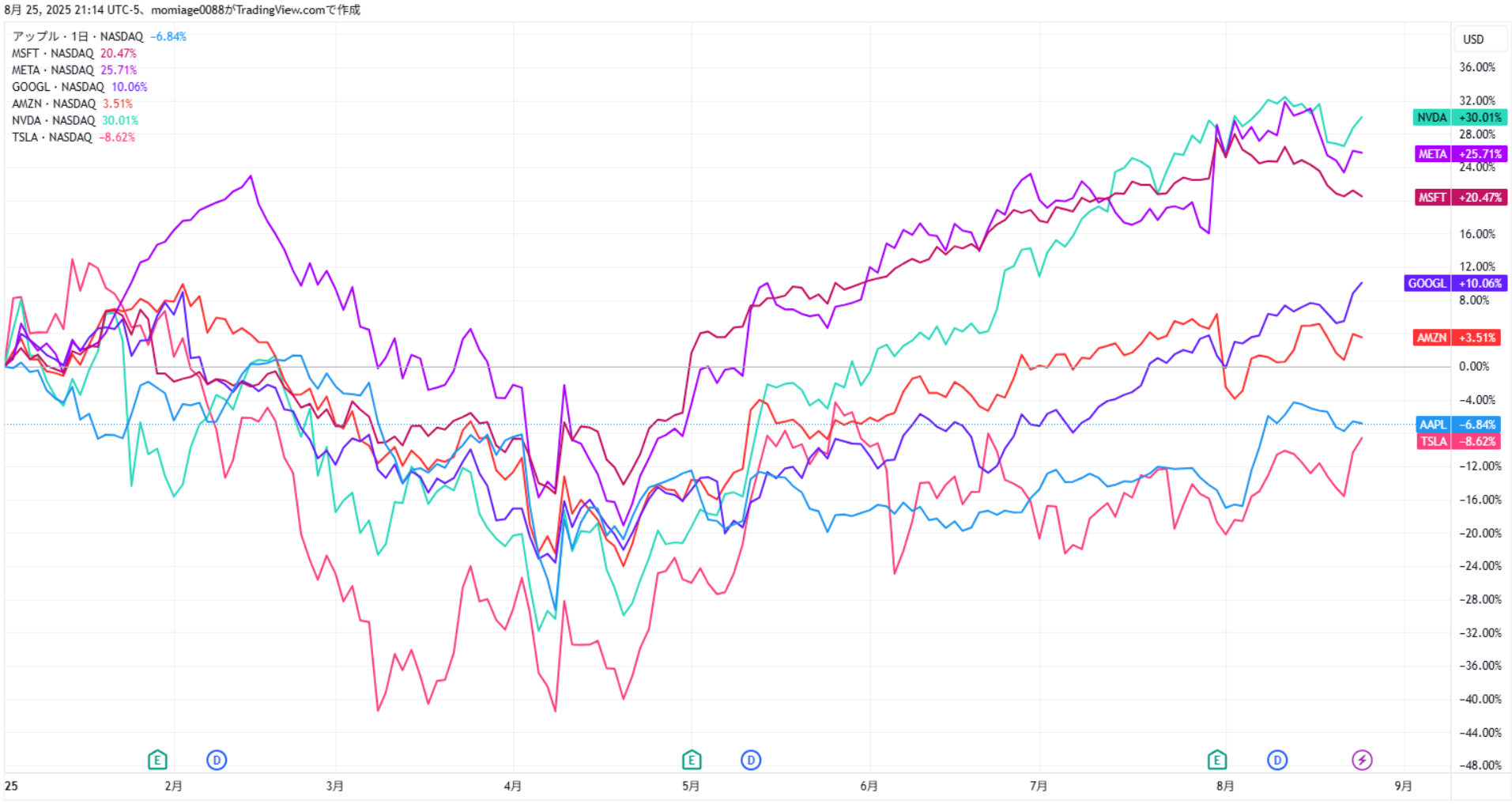
S&P500**+9.89%**

ラッセル**+5.07%**

赤：半導体指数
青:ナスダック
オレンジ：ダウ
黄色：S&P500
紫：ラッセル

出展：Trading View 2025年8月25日時点

米国株市況-テック大型株（M7）



年初来

NVDA+30%
META +25.7
MSFT+20.5
ナスダック+11.78%
GOOGL+10%
S&P500+9.89%
AMZN+3.5%
AAPL-6.8%
TSLA-8.6%

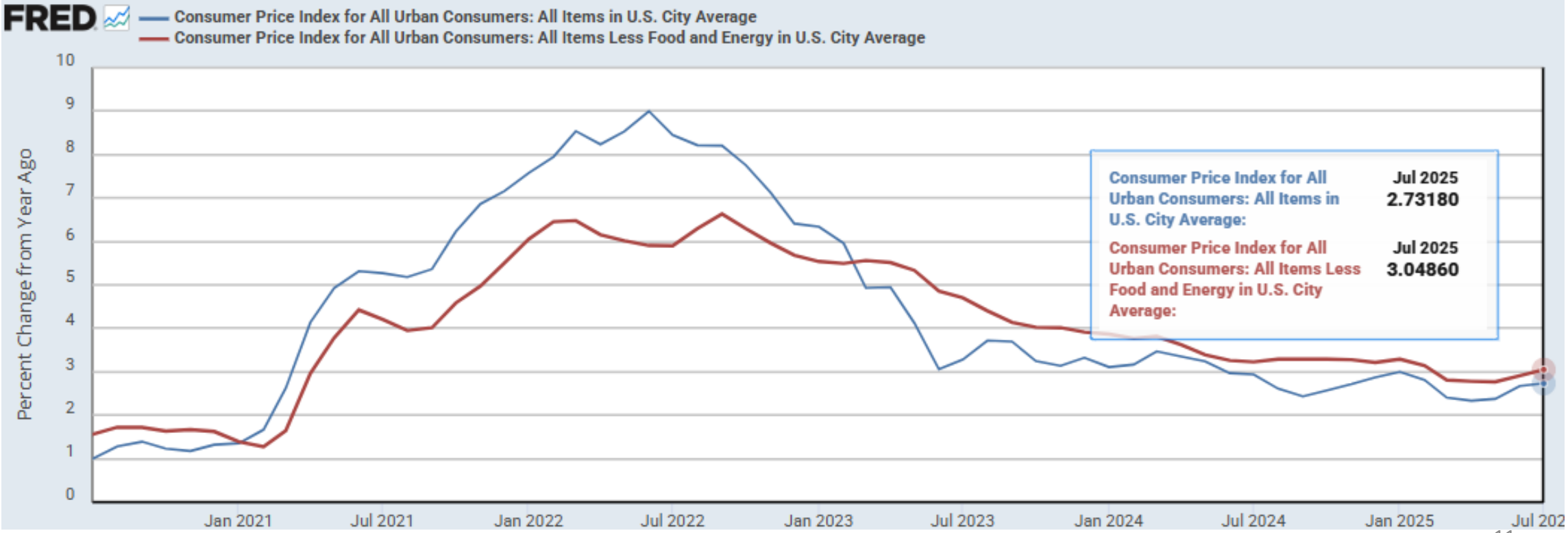
※M7が全て上昇してるわけではなく、特にTSLAはダウントレンドが強い傾向にあり。

出展：Trading View 2025年8月25日時点

米国株市況-インフレ率の変遷

・CPI総合指数、CPIコア指数とも下落が止まりつつある
・FRBとパウエルは利下げへは慎重も９月利下げをほのめかす

青:総合指数　赤:コア指数（食品とエネルギー除く）



出展：https://fred.stlouisfed.org/graph/?g=rocU

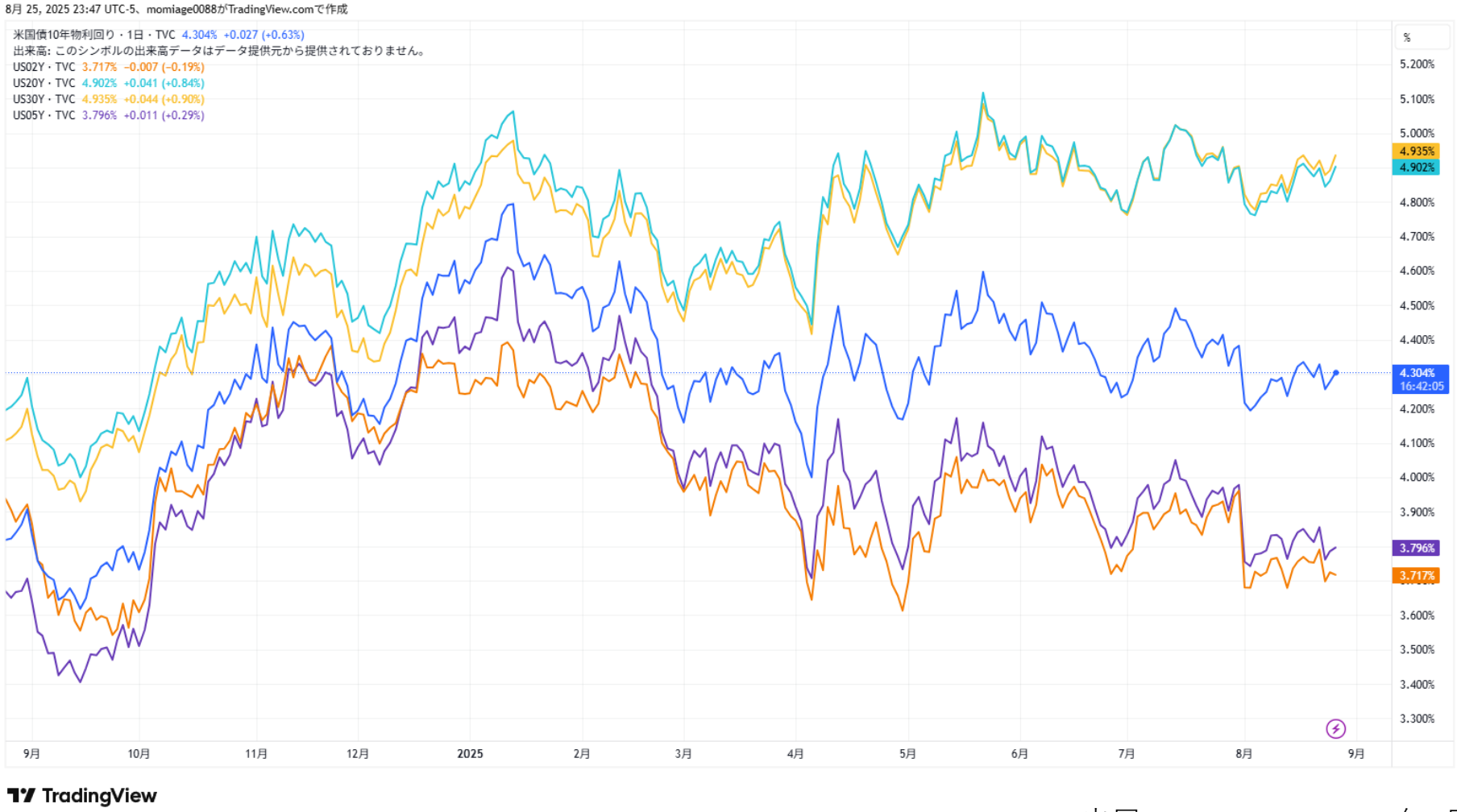
米国株市況-ドルインデックス

ドル安継続、ドル高のサポートも割り込んでいる
トランプ政権としては歓迎される状況に

出展：Trading View
2025年8月25日時点

米国株市況-金利

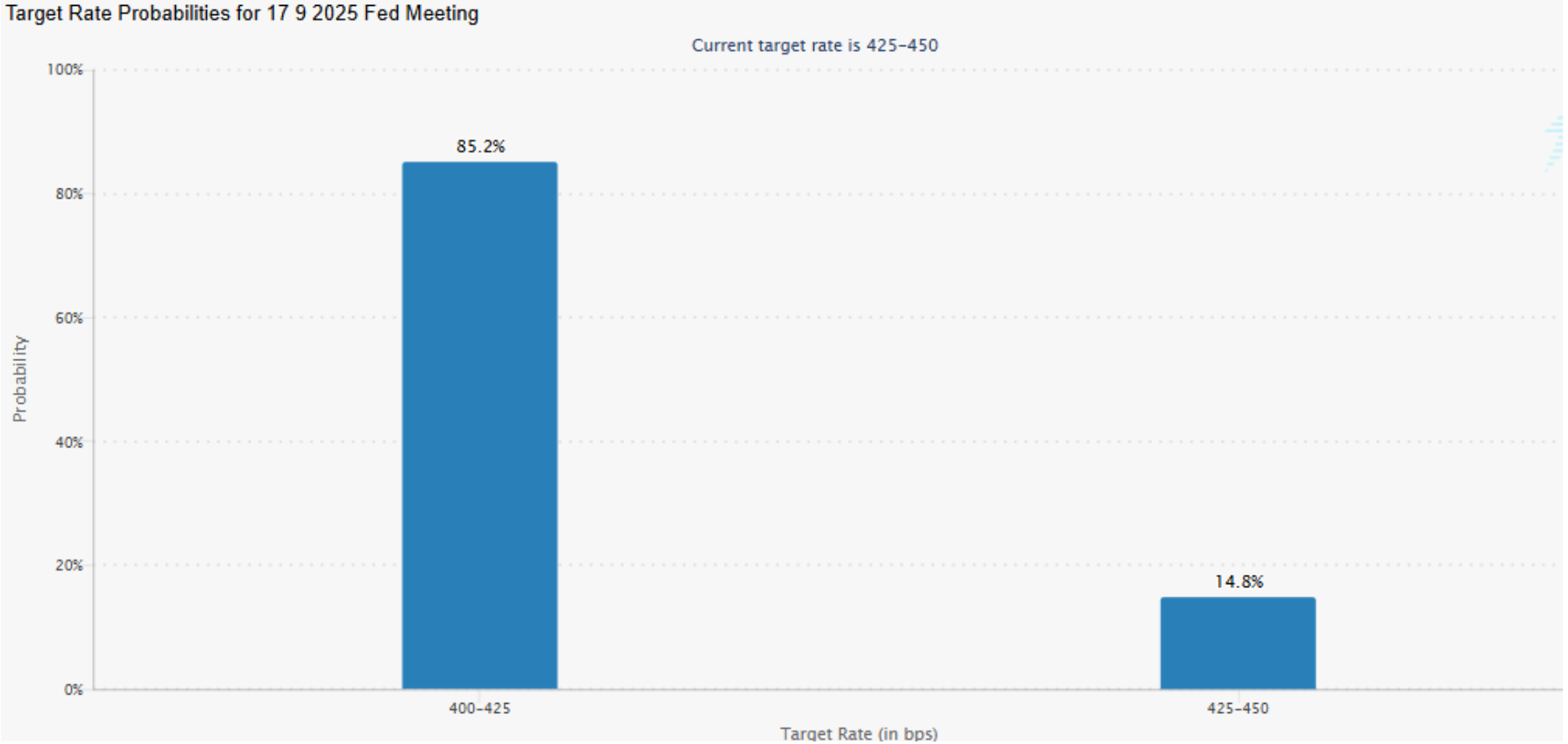
短い２年・５年金利は利下げを織り込み下落
長い20年・30年はインフレリスクも織り込み高止まり



出展：Trading View 2025年8月25日時点

米国株市況-FOMC予想（8月末時点）

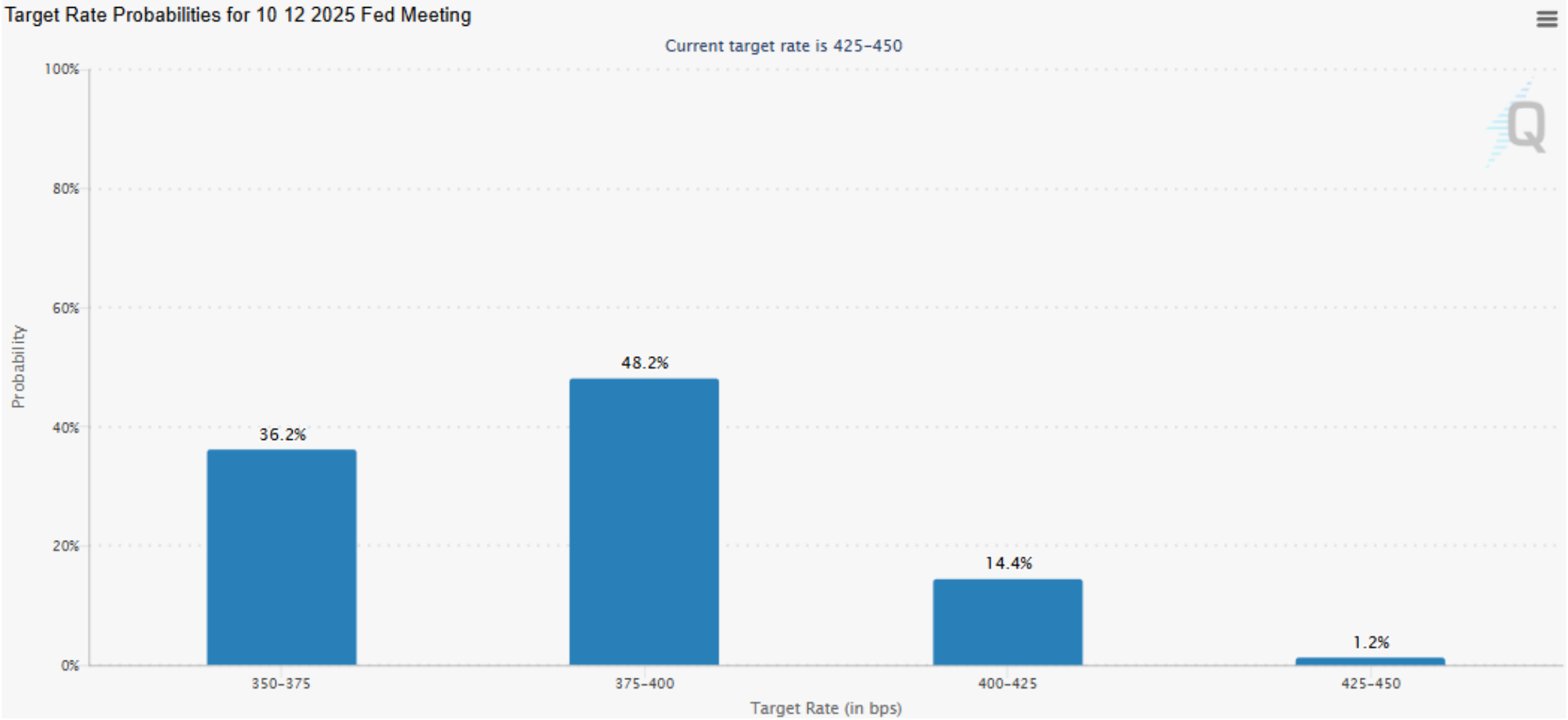
2025年9月FOMC政策金利予想：400-425(現在425-450)(４月は325-375)
利下げ確率82%ほど



引用：https://www.cmegroup.com/ja/markets/interest-rates/cme-fedwatch-tool.html

米国株市況-FOMC予想（8月末時点）

2025年12月FOMC政策金利予想：375-400(現在425-450)(４月は325-375)
よって利下げは年内に1回～2回と予想されている



引用：https://www.cmegroup.com/ja/markets/interest-rates/cme-fedwatch-tool.html

米国株市況-2025年サマリー

・ここまで
①マーケットのトランプへの過小評価
②AIブームの鎮静化によるバリュエーション調整
③米国企業の底堅い決算だが中小企業の倒産件数は過去最高レベル
④利下げは様子見から９月利下げほのめかす（ジャクソンホール）
⑤米国大型企業の自社株買いの株価支え
⑥関税騒動からの高揚なき高騰
⑦関税騒動はほぼ完結（米中の綱引きは続く）

・これから
①利下げした場合の影響度合い（ソフトか再インフレか）
②関税影響が消費者への波及から景気がもつか

もみあげ流「お金を働かせる」為に重要な投資哲学

基本的な考え方・信念

【基本的な考え方・信念】
・投資はあくまで資産形成のサポート
・インフレや実質賃金低下への防御手段
・金融知識は知れば得だが知らないと一生搾取される

【考えに至った経緯】
・米国で初めて投資に出会った（日本を外から見た）
・元々本業では一切手を抜かない性格

基本的な考え方・信念

長期的な視点

・始めるのが早ければ早いほど得をする
・本当にお金が必要な時の準備

心理的側面

・投資ではなく貯蓄感覚でいたい
・非課税枠を使えてるだけで丸儲け

Fireを目指せ！計画を立てよう

過去実績からの年率の統計

年数	SP500	オルカン
10年（～2025年4月	11.1%	10.0%
20年（～2025年4月	7.9%	6.4%
30年（～2025年4月	8.4%	7.5%
1927年～2023年末	約6%	?

Fireを目指せ！計画を立てよう

年率5%と仮定すると25年で元本の倍となる想定

運用額（万円/月）	年率（%）	運用期間（年）	元本（積立額）	運用収益	最終資産
1	5%	35	420	693	1,113
3	5%	30	1,080	1,376	2,456
5	5%	25	1,500	1,440	2,940
10	5%	20	2,400	1,674	4,074
15	5%	15	2,700	1,289	3,989
20	5%	10	2,400	699	3,099

Fireを目指せ！計画を立てよう

年率6%と仮定すると20年で元本の倍となる想定

運用額（万円/月）	年率（%）	運用期間（年）	元本（積立額）	運用収益	最終資産
1	6%	35	420	960	1,380
3	6%	30	1,080	1,857	2,937
5	6%	25	1,500	1,898	3,398
10	6%	20	2,400	2,156	4,556
15	6%	15	2,700	1,625	4,325
20	6%	10	2,400	865	3,265

Fireを目指せ！計画を立てよう

年率7%と仮定すると約18年程で元本の倍となる想定

運用額（万円/月）	年率（%）	運用期間（年）	元本（積立額）	運用収益	最終資産
1	7%	35	420	1,301	1,721
3	7%	30	1,080	2,448	3,528
5	7%	25	1,500	2,437	3,937
10	7%	20	2,400	2,704	5,104
15	7%	15	2,700	1,993	4,693
20	7%	10	2,400	1,040	3,440

Fireを目指せ！計画を立てよう

年率8％と仮定すると15年ちょっとで元本の倍となる想定

運用額（万円/月）	年率（%）	運用期間（年）	元本（積立額）	運用収益	最終資産
1	8%	35	420	1,736	2,156
3	8%	30	1,080	3,172	4,252
5	8%	25	1,500	3,074	4,574
10	8%	20	2,400	3,327	5,727
15	8%	15	2,700	2,397	5,097
20	8%	10	2,400	1,226	3,626

Fireを目指せ！計画を立てよう

2000年からマーケットは4回程暴落を経ている

https://www.bloomberg.com/news/articles/2022-06-14/wall-street-s-latest-bear-market-may-be-here-to-stay-for-a-while

Fireを目指せ！計画を立てよう

短期で反発すればいいが回復には通常倍以上の期間が必要

暴落名	暴落率	暴落期間	暴落時期	回復期間
ブラックマンデー	-30%	4か月	1987年8月-1987年11月	8か月
ITバブル崩壊	-46%	2年1か月	2000年8月-2002年9月	6年9か月
リーマンショック	-52%	1年4か月	2007年10月-2009年2月	5年5か月
コロナショック	-20%	3か月	2019年12月-2020年3月	7か月

ポートフォリオの組み方

①コア＆サテライト戦略

投資方針の主軸を決めて、もしご自身で少しデコレーションを加えたい場合はサテライトとして投資をしていく方針です。
コアで安定感をだして、サテライトで自分好みの少しリスクを取った銘柄を選択していく方式と
例）インデックスETFコア 例）配当コア 例）個別株コア

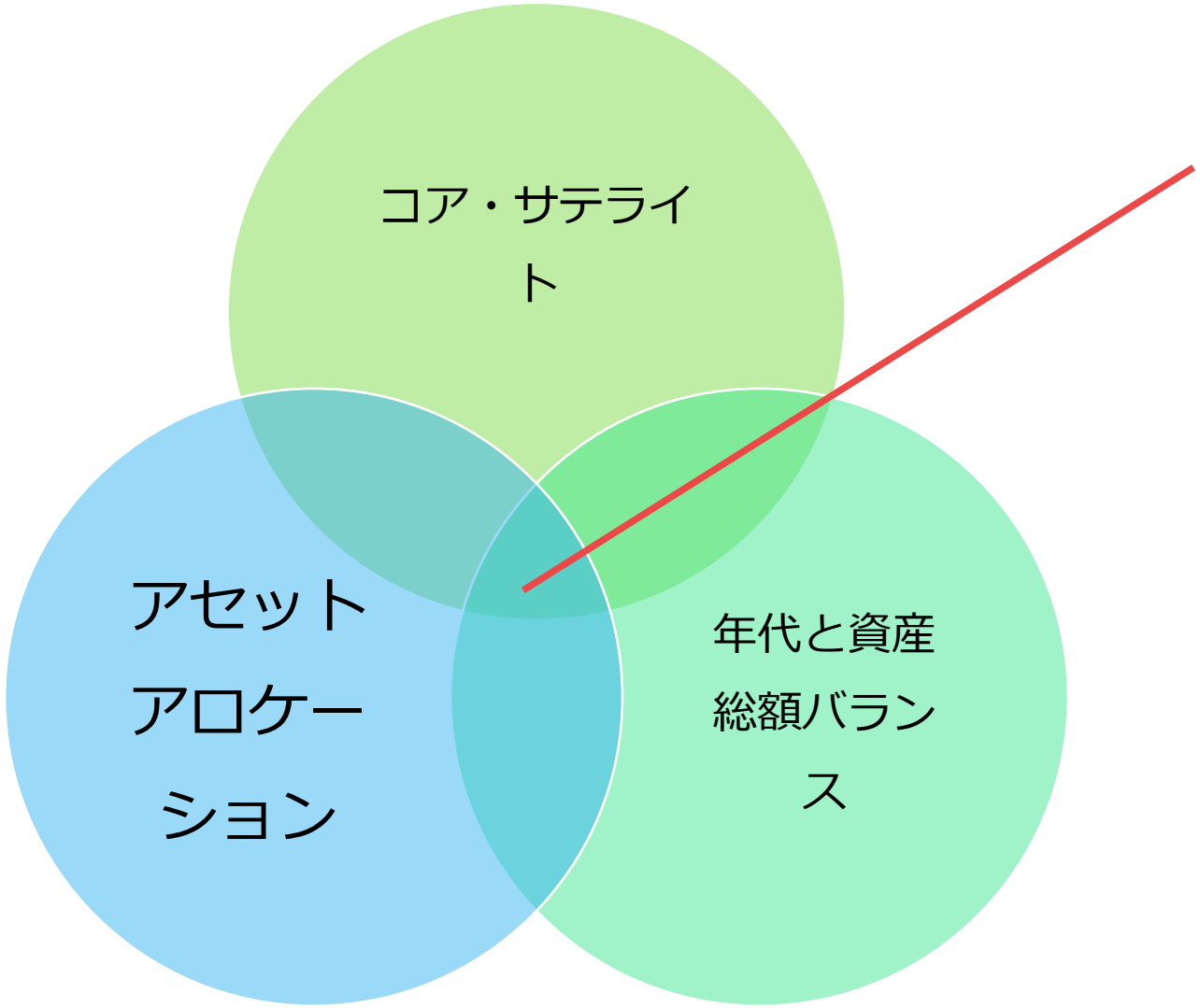
②アセットアロケーション

現金と余剰資金の比率を管理していく事です。
年齢＝現金比率　20歳＝総資産の20％　30歳＝総資産の30％　40歳＝総資産の40％

③年代と資産で総額バランス

現金比率を年代と資産総額によってバランスをとる事です。例えば40歳で総資産が500万円、お子さんが大学受験を控えてる時に、総資産の40％である200万だけ余剰資金として残して問題ないか？などです。人生の大切なイベントも意識して調整。

ポートフォリオの組み方-ルール設定



3つのバランスをとるために最も必要なのは

「ルール設定」

例えばアセットアロケーションを年齢や資産総額バランスを考えずに、無理をしても成功しない。

コア・サテライトも下落相場において余りにもサテライトがリスクが高い戦略にすると、大きな痛手を受ける。

資産別投資戦略-日本人貯蓄額＊

年代	属性	平均値	中央値	金融資産無し
20代	独身	176万円	20万円	42.10%
	既婚	214万円	44万円	35.70%
30代	独身	494万円	75万円	32.40%
	既婚	526万円	200万円	23.90%
40代	独身	657万円	53万円	35.80%
	既婚	825万円	250万円	26.10%
50代	独身	1048万円	53万円	?
	既婚	1253万円	350万円	24.40%

みずほ銀行まとめ

＊預貯金や有価証券、保険などの金融機関への貯蓄、社内預金など金融機関外への貯蓄の合計

資産別投資戦略

3パターンの資産別投資戦略を提案します

・1万円～499万円
一般的にはこの層が多いと考えています。特に今から投資をスタートする人達向け

・500万円～999万円
こちらはある程度年代が上で家族もいらっしゃる層だと考えます。堅実的に確実に増やしたい人向け

・1000万円以上
老後の事を考えだして不労所得も考えると思われる層。億り人も意識するとは思います。

銘柄区分け

3パターンの銘柄区分けで戦略をシンプルに

・インデックス– S&P500に準ずるETFや投資信託。SPY・VOO・VTI・楽天VTIなどあり
※VTIは全米指数だがほぼ同じと考える

・高配当 – 代表ETF VYM,HDV,SPYD
配当率3％以上が基本。連続増配50年以上の配当王もあり

・成長株 – 代表ETF QQQ,VGT
キャピタルゲインがメイン。無配当の企業が多い

オススメETF

S&P500 インデックス (全米含む)	**VOO** 配当率1.19％ 507銘柄（トップ10 38%) 年初来10.06% 時価総額荷重平均	**SPY** 配当率1.13％ 503銘柄(トップ10 38%) 年初来 10.06% 時価総額荷重平均	**VTI** 配当率1.19％ 3,793銘柄トップ10 33%) 年初来9.78% 時価総額荷重平均
成長	**QQQ** 配当率0.50％ 101銘柄(トップ10 52%) 年初来11.56％ 時価総額荷重平均	**VGT** 配当率0.45％ 323銘柄(トップ10 61%) 年初来12.07% 時価総額荷重平均	**SMH** 配当率0.37％ 323銘柄(トップ10 73%) 年初来19.87% 時価総額荷重平均
高配当	**VYM** 配当率2.63％ 469銘柄(トップ10 26%) 年初来9.05% 時価総額荷重平均	**HDV** 配当率3.43％ 81銘柄(トップ10 51%) 年初来9.89% 時価総額荷重平均	**SPYD** 配当率4.5％ 82銘柄(トップ10 13.8%) 年初来4.07% 高配当利回り上位80銘柄 にほぼ均等に投資するETF

資産別投資戦略-1～499万円

20代～30代前半が多い為、リスクを取りやすい。
元本自体がまだ細いので本業での収益を向上させることが最も重要

【戦略】
・年齢がお若いならとにかく時間を味方につけることを考える
・挑戦するなら資産全体の30％
・元資金を増やすことに注力（本業）
・非課税枠を最大限活用する（新NISA1800万円）

【戦術】
・ETFの活用を主体とする
・複利という聞こえのいいキーワードは通用しない（元金が少ない段階だと）
・投資するのを忘れてるような銘柄を選択して元金を増やす

資産別投資戦略-1～499万円

アセット：リスク資産80-90％・現金10-20％位
コアサテライト：インデックス(SPY,VOO,楽天VTI）・QQQ30%など

70％

・インデックス投資を主体に運用する
・非課税枠だけで運用（新NISA1800万円枠）
・定期的に資金を投資する（ある程度の自分のルールが必要）
※ルール例
①月初・もしくは月末に決まった金額を設定して自動積立もしくは自身で投資する
②指数の下落率で投資を決める。5％以上の下落など

30％

・大型テックをメインでチャレンジしてみる（M7）QQQもあり
・小型グロースもありだが手堅い小型株の方がオススメ
※小型株で気を付けたい事
①インとアウトのタイミングは慎重に（含み益は特に小型は幻と思う）
②順張りはいいが高値掴みは禁物（トレンドあり・瞬間的なバブルは注意）

コア　サテライト

資産別投資戦略-500万円～999万円

戦略はリスク先行を少し抑える・戦術はまだ本業集中但し投資継続を機械的に

【戦略】
・無理をしない
・挑戦するなら全体の20％
・元資金を増やすことに注力
・非課税枠を最大限活用する（新NISA1800万円）

【戦術】
・リスクリワードがいい銘柄を選択する
・チャレンジは少し控えめに
・投資するのを忘れてるような銘柄を選択して元金を増やす

資産別投資戦略- 500万円～999万円

アセット：リスク資産60-80％・現金20-40％位
コアサテライト：インデックス(SPY,VOO,楽天VTI）ベースにライフスタイルで

80％

・インデックス投資を主体に運用する
・非課税枠だけで運用（新NISA1800万円枠）
・定期的に資金を投資する
※定期例
①月初・もしくは月末に決まった金額を設定して自動積立もしくは自信で投資する
②指数の下落率で投資を決める。5％以上の下落など

20％

・大型テックメインでの運用（リスクは少し控えめに）
・非課税枠だけで運用（新NISA1800万円枠）
・小型株への投資もありだが、100万円以下に留める（半分になるリスクもある）
※コロナショック後などは10倍になる銘柄もありましたが、現状はほとんど高値の半分以下になっています。

コア　サテライト

資産別投資戦略-1000万円以上

所帯がある層が多いと思われるので、生活防衛資金を厚めに
シンプルに目的に沿ったETFを選択して運用がベター

【戦略】
・無理をしない
・挑戦なら全体の10％（今までと動く額が違うのでリスクリワードを見直す段階）
・コスト見直し段階（支出を極力減らす）
・非課税枠を最大限活用する（新NISA1800万円）

【戦術】
・特にリスクリワードがいい銘柄を選択する
・配当生活も考える段階になる（安い時に高配当を仕込むのもあり）
・非課税枠を全て使い切ることも検討する（無理のない程度に）

資産別投資戦略-1000万円以上

アセット：リスク資産50-80%、現金20-50%
コストも意識・非課税枠最大活用のプラン化・年代的に高配当もOK

50-90%

・インデックス投資を主体に運用する
・非課税枠だけで運用（新NISA1800万円枠）→マックス活用の計画を設定
・定期的に資金を投資する（ある程度の自分のルールが必要）
・年齢的に50代以上なら安値で高配当を仕込むのもあり（VYMなど）
・収入が上がりづらくなる段階なら無駄コストの見直しを定期的に

10-50%

・チャレンジできる年代なら小型株、リスクとれないなら大型株
・銘柄毎のリスク度で投資割合を設定する
・レバで遊ぶのも否定しないがあくまで短期との割り切りも

コア　サテライト

銘柄選び方サマリー

1. 難しいならS&P500一択（VOOやSPYなど）
2. リスクの取り方を考える（家庭・環境に応じて）
3. モメンタム・トレンドで勘違いしない
4. 株式はリスク資産（生活防衛資金は残して）

終わりに（振り返り）

・個人投資家はマイペースに

・誰も未来は予想はできない。予想が外れたらアジャストする柔軟さは大切

・チャンスを逃さない準備も同時に

・周りに影響されずコツコツと時間を味方につける

Keep your fingers crossed!!